



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

四年生

十月 第①週



学習を始める前に

①必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具

②注意

- ・大事だと思われるところはノートに書いてください。
- ・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後のお知らせを見てください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。
- ・必要があるときは、ビデオを止めた^{ひつよう}り、もう一度ビデオを見たりしてください。

先週の宿題から

1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。

2. 言葉の勉強

上の言葉につづく言葉をしたからえらんで、一線で結びましょう。

- ① あまり寒いので手が
 - ② うまくできないのが
 - ③ 小さきころから本に
 - ④ 大雨が日本中にひがいを
-
- | | |
|--|-------|
| | もたらす |
| | 親しむ |
| | かじかむ |
| | もどかしい |

3. 似た言葉のふく習

似た意味の言葉をさがしてみましよう。

得る／取る／もらう

伝える／告げる／言う

一つの花

今西 祐行

「一つだけちようだい。」

これが、ゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉でした。まだ戦争のはげしかったころのことです。

そのころは、おまんじゅうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもありませんでした。おやつどころではありませんでした。食べる物といえは、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかありませんでした。

毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。

ゆみ子は、いつもおなかをすかしていたのでしようか。ご飯のときでも、おやつするときでも、もつともつと言つて、いくらでもほしがるのでした。

すると、ゆみ子のお母さんは、

「じゃあね、一つだけよ。」

と言つて、自分の分から一つ、ゆみ子に分けてくれるのでした。

「一つだけー。一つだけー。」

と、これが、お母さんの口ぐせになってしまいました。ゆみ子は、知らず知らずのうちに、お母さんのこの口ぐせを覚えてしまったのです。「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちようだいと言えは、なんでももらえろと思つてるのね。」

あるとき、お母さんが言いました。

すると、お父さんが、深いため息をついて言いました。

「この子は、一生、みんなちようだい、山ほどちようだいと言つて、両手を出すことを知らずにごすかもしれないね。一つだけのいも、一つだけのにぎり飯、一つだけのかぼちゃのにつけー。みんな一つだけ。一つだけの喜びさ。いや、喜びなんて、一つだつてもらえないかもしれないんだね。いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。」

そんなとき、お父さんは、決まつてゆみ子をめちやくちやに高い高いするのでした。

《新しい漢字》

戦争 センソウ

配給 キユウ

焼く ヤク

喜び ヨロコビ



それから間もなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやってきました。

お父さんが戦争に行く日、ゆみ子は、お母さんにおぶわれて、遠い汽車の駅まで送っていききました。頭には、お母さんの作ってくれた、わた入れの防空頭巾をかぶっていききました。

お母さんのかたにかかっているかばんには、包帯、お薬、配給のきつぷ、そして、大事なお米で作ったおにぎりが入っていました。

ゆみ子は、おにぎりが入っているのをちやあんと知っていましたので、「一つだけちようだい、おにぎり、一つだけちようだい。」と言って、駅に着くまでにみんな食べてしまいました。お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのでしょうか。

駅には、ほかにも戦争に行く人があって、人ごみの中から、ときどきばんざいの声が起りました。また、別の方からは、たえず勇ましい軍歌が聞こえてきました。

ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さんは、プラットホームのはしの方で、ゆみ子をだいて、そんなばんざいや軍歌の声に合わせて、小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたりしていました。まるで、戦争になんか行く人ではないかのように。



《新しい漢字》

ホウタイ
包帯

ナ
泣き顔

イサ
勇ましい

グン
軍歌

ところが、いよいよ汽車が入ってくるというときになって、またゆみ子の「一つだけちようだい。」が始まったのです。

「みんなおやりよ、お母さん。おにぎりをー。」
お父さんが言いました。

「ええ、もう食べちゃったんですのー。ゆみちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあいってー。」

お母さんは、そう言ってゆみ子をあやしましたが、ゆみ子は、とうとう泣きだしてしまいました。

「一つだけ。一つだけ。」
と言って。

お母さんが、ゆみ子を一生けんめいあやしているうちに、お父さんが、ふいといなくなってしまうました。

お父さんは、プラットホームのはしっぽの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモスの花を見つけたのです。あわてて帰ってきたお父さんの手には、1輪のコスモスの花がありました。

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。」

ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、キヤツキヤツと足をばたつかせて喜びました。

お父さんは、それを見てにっこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながらー。

《新しい漢字》

イタイ

兵隊

一輪

リン



それから、十年の年月がすぎました。

ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもかもしれません。

でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに包まれています。

そこから、ミシンの音が、たえず速くなったり、おそくなったり、まるで、何かお話をしているかのように、聞こえてきます。それは、あのお母さんでしょうか。

「お母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」
と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞こえてきました。すると、ミシンの音がしばらくやみました。

やがて、ミシンの音がまたいそがしく始まったとき、買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。そして、町の方へ行きました。

今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。



《読み方が新しい漢字》

つづ
包む

「一つだけちようだい。」

これが、ゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉でした。まだ戦争のはげしかったころのことです。

そのころは、おまんじゆうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもありませんでした。おやつどころではありませんでした。食べる物といえば、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかありませんでした。

毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。

ゆみ子は、いつもおなかをすかしていたのでしょうか。ご飯のときでも、おやつするときでも、もつともつとと言って、いくらでもほしがるのでした。

すると、ゆみ子のお母さんは、



「じゃあね、一つだけよ。」

と言って、自分の分から一つ、ゆみ子に分けてくれるのでした。

「一つだけー。一つだけー。」

と、これが、お母さんの口ぐせになってしまいました。ゆみ子は、知らず知らずのうちに、お母さんのこの口ぐせを覚えてしまったのです。

「なんてかわいそうな子でしょうね。一つだけちようだいと言えば、なんでももらえるところで思ってるのね。」
あるとき、お母さんが言いました。

すると、お父さんが、深いため息をついて言いました。

「この子は、一生、みんなちようだい、山ほどこちようだいと言って、両手を出すことを知らずにすごすかもしれないね。一つだけのいも、一つだけのにぎり飯、一つだけのかぼちゃのにつけー。みんな一つだけ。一つだけの喜びさ。いや、喜びなんて、一つだつてもらえないかもしれないんだね。いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。」

そんなとき、お父さんは、決まってゆみ子をめちやくちやに高い高いするのでした。

《新しい漢字》

配給 キョウウ

焼く ヤク

喜び ヨロコビ

《言葉の意味》 ①配給 食べ物などをわりあてて配ること。

②口ぐせ くせのようによく出て、たびたび言う言葉。

③一生 生まれてから死ぬまで。

それから間もなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやってきました。

お父さんが戦争に行く日、ゆみ子は、お母さんにおぶわれて、遠い汽車の駅まで送っていきました。頭には、お母さんの作ってくれた、わた入れの**防空頭巾**をかぶっていきました。

お母さんのかたにかかっているかばんには、**包帯**、**お薬**、**配給**のきつぷ、そして、大事な**お米**で作ったおにぎりが入っていました。

ゆみ子は、おにぎりが入っているのをちゃあんと知っていましたので、「一つだけちょうだい、おにぎり、一つだけちょうだい。」と言って、駅に着くまでにみんな食べてしまいました。お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのです。うか。

駅には、ほかにも戦争に行く人があつて、**人ごみ**の中から、ときどきばんざいの声が起こりました。また、別の方からは、**たえず勇ましい軍歌**が聞こえてきました。

ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さんは、**プラットホーム**のはしの方で、ゆみ子をだいて、そんなばんざいや軍歌の声に合わせて、小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたりしていました。まるで、戦争になんか行く人ではないかのように。

《新しい漢字》

ホウタイ

包帯

な
泣き顔

いさ
勇ましい

ゲン
軍歌



《言葉の意味》

④ 防空頭巾

空しゅうなどのとき、上空から落ちてくる物から頭を守るかぶりもの。

⑤ 人ごみ

たくさんの人でこみ合うこと。

⑥ たえず

ひっきりなしに。いつも。

⑦ 軍歌 兵隊をはげます歌。

⑧ プラットホーム

駅の、乗客が列車に乗ったり下りたりするところ。

⑨ まるで

ちようど。(他の物にたとえていう言葉)

ところが、いよいよ汽車が入ってくるというときになって、またゆみ子の「一つだけちようだい。」が始まったのです。

「みんなおやりよ、お母さん。おにぎりをー。」
お父さんが言いました。

「ええ、もう食べちゃったんですのー。ゆみちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあいってー。」

お母さんは、そう言ってゆみ子をあやしましたが、ゆみ子は、とうとう泣きだしてしまいました。

「一つだけ。一つだけ。」
と言って。

お母さんが、ゆみ子を一生けんめいあやしているうちに、お父さんが、ぷいといなくなっていました。

お父さんは、プラットホームのはしっぱの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモスの花を見つけたのです。あわてて帰ってきたお父さんの手には、1輪のコスモスの花がありました。

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。」

ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、キャツキャツと足をばたつかせて喜びました。

お父さんは、それを見てにつこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながらー。

《新しい漢字》

ヘイタイ

リン

兵隊

一輪

《言葉の意味》

⑩ あやす 子どものきげんをとる。

⑪ とうとう けつきよく。ついに。

⑫ ばたつく じたばたする。さわがしく動き回る。



それから、十年の年月がすぎました。

ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、**あるいは**知らないのかもしれないかもしれません。

でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに含まれています。

そこから、ミシンの音が、たえず速くなったり、おそくなったり、まるで、何かお話をしているかのように、聞こえてきます。それは、あのお母さんでしょうか。

「お母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」
と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞こえてきました。

すると、ミシンの音が**しばらく**やみました。

やがて、ミシンの音がまたいそがしく始まったとき、買い物かごをさげたゆみ子が、**スキップ**をしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。そして、町の方へ行きました。

今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。



〈読み方が新し

包む

〈言葉の意味〉

⑬ あるいは もしかすると。

⑭ しばらく 少しの間。

⑮ スキップ かた足ずつ、軽く飛びはねるようにして進むこと。

戦争中のこと、戦争後の場面のちがいをまとめましょう。

食べ物	コスモス	家族	世の中の様子	
お米の代わりに配給される、	お父さんがゆみ子にわたした、	三人ぐらし	戦争がはげしく、	戦争中
「お肉とお魚とどっちが いいの。」と、		二人ぐらし		戦争後



戦争中のこと、戦争後の場面のちがいをまとめましょう。

	世の中の様子	家族	コスモス	食べ物
戦争中	戦争がはげしく、 毎日、敵の飛行機が飛ん できて、ばくだんを落と していった。	三人ぐらし お父さん、お母さん、ゆ み子	お父さんがゆみ子にわた した、 たった一輪のコスモス。	お米の代わりに配給され る、 おいもや豆やかぼちやし かなかった。
戦争後	買い物かごをさげて買い 物にいけるような、平和 な世の中になった。	二人ぐらし お母さんとゆみ子	ゆみ子の家は、コスモス の花でいっぱい包まれて いる。コスモスのトンネ ルをくぐって買い物に行 く。	「お肉とお魚とどっちが いいの。」と、 食べ物をえらべるほど豊 かな生活になった。



次の言葉の意味をたしかめましょう

- ① 配給 食べ物などをわりあてて配ること。
- ② ログセ くせのようによく出て、たびたび言う言葉。
- ③ 一生 生まれてから死ぬまで。
- ④ 防空頭巾ぼうきん 空しゅうなどのとき、上空から落ちてくる物から頭を守るかぶりもの。
- ⑤ 人ごみ たくさんの人でこみ合うこと。
- ⑥ たえず ひっきりなしに。いつも。
- ⑦ 軍歌 兵隊をはげます歌。
- ⑧ プラットホーム 駅の、乗客が列車に乗ったり下りたりするところ。
- ⑨ まるで ちょうど。(他の物にたとえていう言葉)
- ⑩ あやす 子どものきげんをとる。
- ⑪ とうとう けつきよく。ついに。
- ⑫ ばたつく じたばたする。さわがしく動き回る。
- ⑬ あるいは もしかすると。
- ⑭ しばらく 少しの間。
- ⑮ スキップ かた足ずつ、軽く飛びはねるようにして進むこと。

新しい漢字

書いて覚えましょう

戦争 センソウ

戦戦戦戦戦戦

戦戦戦戦

争争争争争

配給 キユウ

給給給給給給給給給給給給

焼く や

烧烧烧烧烧烧烧烧烧烧烧烧

喜び よろこ

喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜

覚える おぼ

覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚覚

包帯 ホウタイ

包包包包包

带带带带带带带带带带带带带带带带

泣なき顔
泣泣泣泣泣泣泣泣

勇いさましい
勇勇勇勇勇勇勇勇

軍グン歌
軍軍軍軍軍軍軍軍

兵ヘイタイ隊
兵兵兵兵兵兵兵兵

隊隊隊隊隊隊隊隊

一輪リン
輪輪輪輪輪輪輪輪

輪輪輪輪

包つむ
《読み方が新しい漢字》

新しい漢字

書いて覚えましょう。

戦争がはげしくなった。

食べ物が配給される。

町は次々に焼かれた。

一つだけの喜び。

かばんに包帯と薬を入れる。

泣き顔を見せなくなかった。

勇ましい軍歌が聞こえてくる。

お父さんは兵隊になった。

一輪のコスモスがあった。

コスモスの花に包まれている。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。

2. 音読 「一つの花」を読みましょう。

3. 言葉の勉強

次の問題を国語のノートにやりましょう。

① 「たえず」を使って、文を作りましょう。

例…小鳥のさえずりがたえず聞こえていた。

② ①と②、どちらの使い方が正しいですか。

《まるで》

① 詩を書くのにまるで一日かかった。

② まるで絵にかいたように美しい

《あるいは》

① あしたは、あるいは雨かもしれない。

② きのうは、あるいは雨がふった。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

四年生

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
	<p>伝言はまちがえずに 伝言をまちがえずに 伝えるために注意す ることをおぼえよう。</p>		<p>三つのお願い 友だちと喧嘩をした 経験や仲直りをして うれしかった経験を 話そう。</p>	<p>話す／聞く</p>	<p>1年間の学習を通し て 先生の話聞き、学 習を進めよう。</p>
<p>伝えたいことを書く う 事実を正確に伝える 記事の書き方を学び、 記事を書く。</p>	<p>春のうた 春になるとみられる 生き物や草花の、詩 を書く。</p>	<p>「かむ」こと力 二つのまとまりそれ ぞれを、短くまとめ よう。 (要約しよ う。)</p>	<p>手紙を書く 手紙の書き方を覚え て、友だちに手紙を 書こう。</p>	<p>書く</p>	<p>新聞記事 記事の内容をまとめ、 記事に対する自分の 意見を書こう。</p>
<p>伝えたいことを書く う 新聞には、どんな工 夫がされているか知 ろう。</p>	<p>春のうた 場面の様子やかえる の気持ちを想像しな がら読もう。 かえるの気持ちが表 れるように音読しよ う。</p>	<p>「かむ」こと力 段落と段落のつなが りに気をつけて 読み、内容をつかも う。</p>	<p>三つのお願い ばめんの様子や物語 に出てくる人の気持 ちを想像して読もう。</p>	<p>読む</p>	<p>新聞記事 子ども新聞を読もう。</p>
<p>いろいろな符号 いろいろな符号の働 きを知ろう。</p>	<p>ローマ字 ローマ字の書き方や 決まりを知って、 ローマ字で書いてて みよう。</p>	<p>漢字辞典の使い方 漢字辞典の使い方 を知り、実際に使っ て熟語を調べよう。</p>	<p>〈漢字の組み立て〉 漢字を部分に分けて、 部分の名前を覚えよ う。漢字の部分があ つ意味を知ろう。</p>	<p>言葉</p>	

12月	11月	10月	9月	8月	
<p>自分の考えを発信しよう 自分がくわしく知りたいことや疑問に思うことを調べて、発信しよう。</p>			<p>伝え合うということ 調べたことを発表する方法について学び、調べたことを発表しよう。</p>		<p>話す／聞く</p>
<p>自分の考えを発信しよう 自分がくわしく知りたいことや疑問に思うことを調べて、新聞の形に書こう。</p> <p>心のつぶやきを言葉に 友だちの詩を参考に、詩を書こう。</p>	<p>アップとルーズ 段落ごとの内容をまとめよう。</p>	<p>一つの花 戦争中と戦争後の場面をくらべて、そのちがいをまとめよう。</p>	<p>伝え合うということ 自分の課題を見つけて、作文を書こう。</p>	<p>本のしょうかい 読んだ本の紹介カードを作ろう。</p> <p>白いぼうし いちばんおもしろいな、すてきだなと思うところ、心に残るところ書こう。</p>	<p>書く</p>
<p>自分の考えを発信しよう 自分がくわしく知りたいことや疑問に思ったことの発信の仕方を知ろう。</p> <p>心のつぶやきを言葉に 友だちの詩を味わおう。</p>	<p>アップとルーズ 段落ごとの内容を読み取り、文章の組み立てをとらえよう。</p>	<p>一つの花 場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読もう。</p>	<p>伝え合うということ 「手と心で読む」を読んで、伝え合うことについて考えよう。</p>	<p>白いぼうし 様子や気持ちを表す言葉に注意して、場面の様子をつかもう。</p>	<p>読む</p>
	<p>いろいろな意味をもつ言葉 かなで書くと同じでも、意味のちがう言葉について考えよう。</p>	<p>文と文のつながり 接続後の働きを知り、正しく使えるようにしましょう。</p>	<p>にた意味の言葉 にた意味の言葉の違いを知り、ただしくつかえるようになるう。</p>	<p>同じ訓を持つ漢字 同じ訓を持つ漢字それぞれの意味と使い方を知ろう。</p>	<p>言葉</p>

	3月	2月	1月	
				話す／聞く
	<p>ごんぎつね 登場人物の気持ちの うつり変わりをもち に、この作品を、自 分で思ったことを、自 分なりにまとめてみ よう。</p>	<p>言葉遊び 自分で言葉遊びを作 ろう。</p>	<p>表やグラフにして 生活にかかわる問題 についてしらべて、 文章にまとめよう。</p>	書く
	<p>ごんぎつね 物語のあらすじをお さえ、場面の様子 想像しよう。 登場人物の気持ちの うつり変わりを読み 取ろう。</p>	<p>言葉遊び いろいろな言葉遊び を知ろう。</p>	<p>表やグラフにして 表やグラフを使った 文章について知ろう。</p>	読む
<p>〈四年生の漢字〉 四年生で習った漢字 の復習をしよう。</p>		<p>漢字しりとり 漢字のしりとりをし て、漢字の読み方や 使い方を覚えよう。</p>	<p>熟語の意味 漢字の訓や漢字の組 み合わせで、熟語の 意味をつかめるよう にしよう。</p>	言葉